

第28回 全国街路事業 コンクール応募資料

平成27年11月

応募者名：千葉市

事業の名称：新港横戸町線整備事業

実施都市名：千葉市

事業目的

事業目的は、臨海部と内陸部の連絡を強化し、千葉都心部への通過車両の流入を抑制し渋滞緩和を図るとともに、周辺道路の交通を受け持つことで交通環境の改善や事故防止を図ることである。

事業概要

事業名称：新港横戸町線整備事業

路線名：新港横戸町線

事業箇所：千葉市美浜区幸町～千葉市稲毛区穴川

事業延長：2,630m

幅員：31～52m

事業費：約740億円

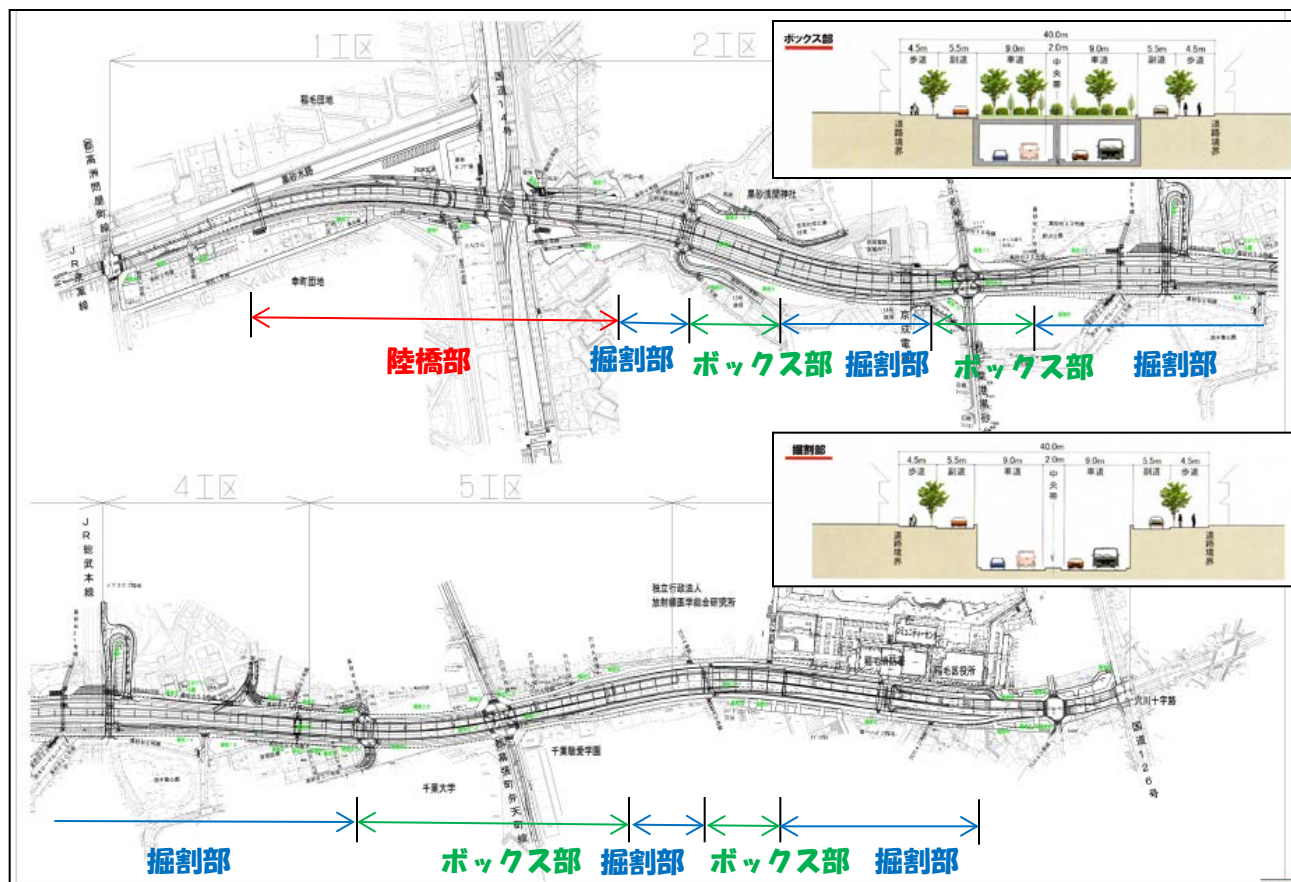
事業実施期間：平成8年度～平成26年度

新港横戸町線は、美浜区新港を起点とし花見川区横戸町を終点とする延長約13.4kmの都市計画道路で、国道14号（美浜区幸町）から国道126号（稲毛区穴川）までの延長約2.2kmが未整備となっていた。当該未整備区間は、平成4年度に千葉中環状道路を構成する路線に位置付けられ、平成7年度に地域高規格道路の整備区間に指定された。平成8年度より事業に着手し、平成22年に本線部供用開始、平成24年度に副道部が供用開始され、平成26年度に緑地整備が完了した。

事業位置図



全体図（平面図・側面図・横断図）



新港横戸町線の整備効果アピール資料

(1) 臨海部（幸町）と内陸部（穴川）の移動時間が短縮

①穴川ICから国道357号間の一般車の移動時間が
5分短縮（12分→7分）

②穴川3丁目交差点から食品ｺﾝﾍﾞﾈﾝﾄ間の大型貨物自動車の
移動時間が14分短縮（23分→9分）

〔大型貨物自動車が、通行可能な道路で比較しました。〕

臨海部と内陸部の連絡強化や物流機能の向上が図られました。



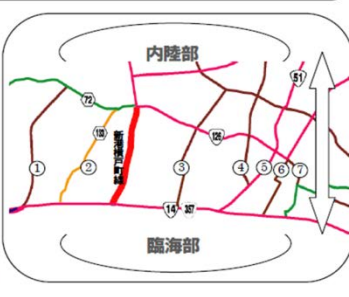
(2) 新港横戸町線の周辺で、臨海部と内陸部を結ぶ主要な道路の交通量が減少

- ・7路線のうち、6路線で交通量が減少し、その総交通量が、約9%減少
 - ・最も直近に位置する稲毛停車場穴川線の交通量が、2,200台/12h減少（15,700台/12h→13,500台/12h）
- 臨海部と内陸部を結ぶ道路交通が新港横戸町線に転換し、周辺の交通環境が改善されました。**

(単位: 台/12h)

路線名	供用前 A	供用後 B	増減 B-A (変化率)
①堀江先呂町線 (千葉西警察入口)	16,900	15,400	▲1,500 (-8.9%)
②稲毛停車場穴川線 (衛生十字路)	15,700	13,500	▲2,200 (-14.0%)
③西千葉駅前南町線 (作草部線)	11,700	10,700	▲1,000 (-8.6%)
④新町若松町線 (稲毛部線)	17,400	16,500	▲900 (-5.2%)
⑤国道14号 (新町交差点)	14,400	15,400	1,000 (+6.9%)
⑥京成千葉中央駅線 (本町2丁目交差点)	13,900	12,000	▲1,900 (-13.7%)
⑦市場町4号線 (供用前線)	17,900	15,100	▲2,800 (-15.6%)
総交通量	107,900	98,600	▲9,300 (-8.6%)

▲ 内陸部と臨海部を結ぶ主要な道路の交通量の変化
データ: 供用前 平成22年2月及び8月、供用後 平成22年11月



2

(3) 千葉都心部の交通量が減少

〔交差点交通量〕

- ・全車種では、主要な交差点5箇所のうち、4交差点で交通量が減少
- ・大型車では、主要な交差点全てで、交通量が大幅に減少

千葉都心部の交差点における交通集中が改善されました。

交差点名	車種	供用前 A	供用後 B	増減 B-A (変化率)
①作草部駅前	全車種	33,300	32,300	▲1,000 (-3.0%)
	大型車	3,500	2,300	▲1,200 (-34.3%)
②稲毛駅前	全車種	41,410	41,380	▲30 (-0.1%)
	大型車	3,600	2,400	▲1,200 (-33.3%)
③新町2丁目	全車種	36,000	31,700	▲4,300 (-11.9%)
	大型車	4,700	3,300	▲1,400 (-29.8%)
④幸町	全車種	28,500	29,400	▲900 (+3.2%)
	大型車	2,900	1,700	▲1,200 (-41.4%)
⑤南千代駅前	全車種	32,400	30,700	▲1,700 (-5.2%)
	大型車	4,300	3,400	▲900 (-20.9%)

▲ 都心部の主要な交差点交通量の変化
データ: 供用前 平成22年2月、供用後 平成22年11月



〔路線別交通量〕

- ・全車種では、都心部の路線の平均交通量が若干減少（16,600台/12h → 16,200台/12h）約2%減少
 - ・大型車では、都心部の路線の平均交通量が大幅に減少（1,800台/12h → 1,200台/12h）約33%減少
- ※平均交通量: 都心部幹線（交通量×道路幅員）を都心部幹線幅員で割った数値。（調査単位とした道路区間の交通量を距離で加重平均した数値）

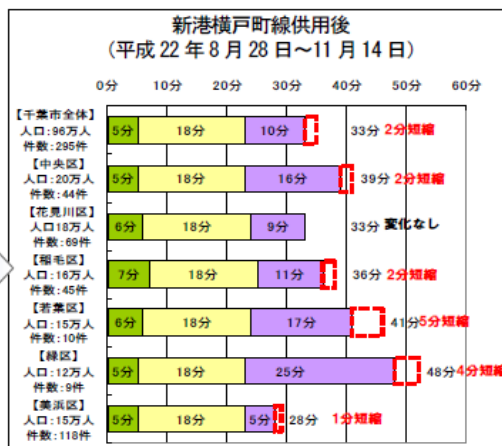
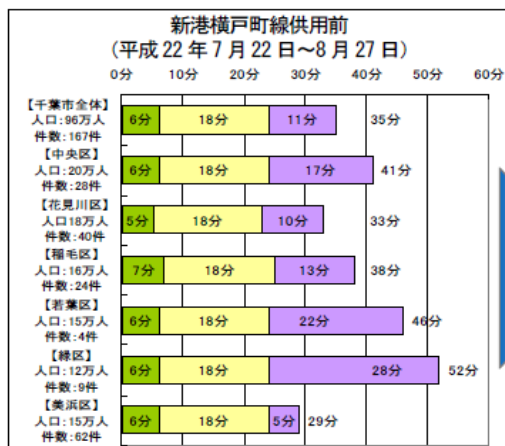
千葉都心部の交通の流れが改善されました。

(4) 救急車搬送時間の短縮

- ・救急車の全国平均搬送時間が年々増加している中で、市域から千葉県救急医療センター（第三次救急医療センター）および千葉市立海浜病院への搬送時間の平均値が2分短縮（35分→33分）

暮らしの安全・安心性が向上しました。

※新港横戸町線が接続する国道357号の交通円滑化に向けた工事（市役所前で現在進められている地下立体化工事や千葉西警察入口から登戸までの連続する交差点の改良工事）などが完了（平成26年頃予定）することで、さらなる時間の短縮が期待されます。



▲ 市域から千葉救急医療センター及び千葉市立海浜病院への搬送時間の平均値
データ: 救急車ブローブ調査 平日7時台～18時台を対象
国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所との共同研究

■ 消防署から現場までの到着時間
■ 現場滞在時間(待ち時間)
■ 現場から病院までの搬送時間

真 写 前 業 事

平成15年4月撮影



平成15年4月撮影



平成15年10月撮影



事業後写真

平成27年11月撮影



平成27年11月撮影



平成27年11月撮影



路線全体の進捗状況

